和歌山県立
日高高等学校
SGH通信
第１７号
２０１８年１２月１４日

カナダ研修 その２

SGH 海外研修　移民難民

2018 年 11 月 4 日 ～ 9日

主な研修内容

11/4　出国
11/4　市内研修（移民の都市）
11/5　移民学修
　・史跡訪問（移民の歴史）
　・県人会訪問（移民の現在）
11/6　自主研修（インタビュー調査）
11/7　ﾘｯﾁﾓﾝﾄﾞｾｶﾝﾀﾞﾘｰｽｸｰﾙ
11/8　出国（11/9　帰国）

報告②インタビュー調査

現地でインタビューしたところ、ほとんどの人から「移民です」との回答を得たことで、バンクーバーで暮らす移民の多さを改めて実感した。また、移民でない人も、移民の方に対してプラスの印象を持っていることが分かった。移民が中心の国だからだという理由もあるが、お互いがお互いを受け入れているのはとても良いことだと思った。何より、どなたも親切に応じてくれたので、話しかけやすかった。

このような方々が多いからこそ、この国は移民をたくさん受け入れても成り立っているのではないかと考える。今後、もし日本が移民難民を受け入れていくなら、国民の意識を変えていくことが必要だ。自分も移民難民について全く知識がなかった時には、意見も何も持っていなかった。たくさんの人が知識を得ることで、受け入れるか受け入れないかの決定が変わってくる。もっと、日本で、たくさんの人に知識を広めていくことが大切だと学んだ。

２年５組　鈴木穂乃加

報告③高校での協働学修

高校で直接生徒の皆さんと触れ合ったことで、移民という言葉に対し、渡航前とは全く異なる考えを持つようになった。

以前は、「移民」とは何か特別な、少し違う存在のような印象を持っていた。しかし、この研修を通して、彼らは私たちと何も変わらない人たちであることを学んだ。

また、カナダの人は、小さい頃から移民と接しているためにお互いに違う文化を理解しやすいのだと感じた。道を歩いている時やエレベーターに乗っている時、学校を訪れた時も決まって「Where are you from?」と尋ねられた。移民で成り立っている国だからこそ、知らない国の人に対しても声を掛けることができるのだと実感した。多様な国籍の人と普段から接する機会が多いからこそ、外国の人にも抵抗なく話しかけることができるのだと考えた。

２年４組　玉置朝花

報告④総括

研修では多くのことを学んだ。

一つ目は、移民についての知識を深められたことである。日本でも移民は少しずつ受け入れられつつあるが、その数は非常に少ない。一方、カナダでは人口の約30%が移民であり、多くの人種が混ざっている。話されている言語は英語だけでなく、中国語、フランス語、日本語等さまざまで、非常に多国籍な国であった。

カナダは移民に支えられて成り立っている国であるが、日本でもいずれはこの仕組を取り入れていかなくてはならないだろう。少子化に加え、超高齢社会となった今、働き手不足解消のために外国人労働者は増えていくであろうし、移民を受け入れる体制作りも進めていくべきだと考えた。

二つ目は、英語力である。五日間、多くの人と話したし、相当量の英語を話した。和歌山県人会の方には、日本人はしっかりとした文法にとらわれ過ぎて、話すことを疎かにしていると指摘いただいた。実際、現地でのコミュニケーションにおいては、単語を並べているだけでも、会話のほとんどは通じた。文法も大切であるが、まずはしっかり口に出して話し、使っていくことが大事であると学んだ。

２年５組　下田悠斗